

被災地の子どもたちに 支援を続ける

詩人・現代美術家

ヒロ・タナベさん(油田)

(本名・渡邊 博志)

プロフィール

名古屋市市の染織代理店の三男として生まれる。愛知学芸大学(現、愛知教育大学)美術科卒業後、昭和36年、凸版印刷(株)にアートディレクターとして入社。企業勤務と並行して創作活動。独立した後、平成6年、市内にアトリエ兼住居を構え、翌年から美術を専業。レリーフ彫刻(抽象)とコンピュータ(CG)による抽象画を制作。国内外で多数の展覧会に出品。なお、詩作は高校時代から始めている。



▲子どもたちにトランプを手渡すヒロ・タナベさん



▲動物と人をテーマにした雑学トランプ

東日本大震災後、福島第1原発の事故で放射能汚染により外で遊べない福島県内の小学生を元気づけようと、独自に制作したかわいらしい動物が描かれ、人間と動物の雑学を記載した「雑学トランプ」や、抽象画を背景に犬や猫を描いた「カレンダー」を寄贈する活動を続けています。平成23年12月、福島市内の8小学校と川俣町内の全6小学校の児童全員(約3800人)にトランプを、平成24年12月、翌25年2月には、南相馬市内、全16小学校の児童全員(延約4000人)にカレンダーを贈呈し、それぞれの教育委員会から感謝状が贈られています。

贈呈式の様子は、NHK総合テレビや朝日新聞、地元紙2紙で紹介されました。

被災地の子どもたちに支援を続けるヒロさんの言葉です。
「放射能汚染により外で遊べない子どもたちがふびん

ゲームではなく、友達同士や家族で楽しめる昔ながらのトランプだ」と思い、これまでの経験を生かすことにしました。

トランプを寄贈するために小学校を訪れると、子どもたちが校庭で遊んでいました。でも、遊べるのは2時間。完成品をじかに手渡しました。



▲2014年(上)と2013年(下)のカレンダー

また、10月開催の釜山国際環境美術祭(韓国)に抽象画を出品予定です。

今後の活動
被災地の支援は、中学生、高校生へシフトしていこうと思っています。

子どもたちから「ジョーカーが面白い」「かわいい」などと、生の声を聞くことができました。

また、南相馬市では、全校を回れず一枚だけだったので、原画展を開催し、児童とのコミュニケーションを図りました。

創作活動に好条件

香取市に知人などはいまありませんでしたが、手ごろなアトリエ用地が見つかりました。

イベント Pickup

もうすぐ開催のイベントをピックアップ! ぜひお越しください



市民レガッタ大会



小見川祇園祭



きもだめし大会(山田児童館)

佐原サンボーイズ



一球入魂・最後まで全力プレー!

佐原サンボーイズは「一球入魂、あきらめず最後まで全力プレー!」をモットーに、チーム一丸となって頑張っています。



▲野球仲間を増やしたいな!

野球を通じた「挨拶、礼儀、仲間を大切にする」の合言葉で、指導者、子ども、父兄が、一丸となり、夢と希望に向けた活動を行っています。

スポ根魂

vol.12

ここで紹介する団体は、見学や体験が気軽にできます。



遊びの要素を取り入れ楽しいスポーツを!

福田小学校の子どもたちを対象に約20人の団員により、土曜日の9時から正午まで福田小学校で行っています。

バスケットボールのほか、マットやテニスボールを使ったコーディネーショントレーニングを取り入れ、遊び感覚で楽しく練習をしています。



▲楽しくウォーミングアップ

福田

編集後記

色とりどりのハナシヨウブに囲まれ、大勢の来場者から祝福を受ける水生植物園の嫁入り舟。園内で本当に式を挙げると思っていなかった観光客もいるようですが、本物の式を挙げています。

まもなく佐原の大祭。本宿地区は、準備も大詰め。浜宿区の山車は、山車会館から町内に戻ります。7月7日(日)正午に会館を出発し、小野川沿いなどを曳きます。佐原のまちは、お祭りの雰囲気がいよいよ始まります。

なお、人形の看板の字は、鹿島神宮の宮司に揮毫していただいたそうです。人形を通じた縁です。(M)

人口と世帯

6月1日現在(前月比)

計/82,656人(-74)

男/40,808人(-41)

女/41,848人(-33)

世帯数/30,136世帯(-21)